

2018年のポストカードは独特の温かみあふれるイラストを紹介！
難病と向き合い絵を描き続ける中学生アーティスト池原楓人さん



僕の描く絵でみんなをハッピーに
愛きようのあるタッチで動物を描く



約1万5000人に一人の割合で生まれるといわれる先天性の難病と向き合いながら、独特の感性豊かな画才を發揮して、創作活動を続ける池原楓人さん(15)。昨年9月に念願のアーティスト展を開催して以来、会場となるお店や家族・友人らの応援を受けながら意欲的に個展を継続し、訪れた多くの人の心をつかんでいます。

楓人さんが生後約2週間で診断されたのは、過食・肥満、筋力の低下などを特徴とする難病「フラダー・ウィリー」症候群。厳しい体調管理によって症状の悪化防止に努めなければいけない一方、物心ついたときから絵を描くのが大好きで、犬をはじめさまざまな動物たちを愛きようあふれるタッチで描いてきました。小学校に上がるとその才能はたちまち周囲の大人までも虜にし、数々の絵画コンクールで見事入賞を果たしました。

昨年初めて個展を開いたとき

- 池原楓人さん** (いけはらふうと)
- 2002年11月5日生まれ読谷村出身
 - 15番目染色体欠失型フラダーウィリー症候群と診断(指定難病193)
 - 沖縄県立美咲特別支援学校中学部3年生
目指すは小学校～中学部の9年間皆出席!
(現在継続中)
 - 小学6年…沖縄県学校図書館協議会主催
感想画自由入選受賞
 - 小学6年…MOA美術館沖縄県児童作品展
絵画の部 金賞受賞
 - 中学部…琉球新報社主催 版画コンクール
優秀賞受賞

かけは、母親の博乃さんが友人から言われた一言で、「楓人の絵は心を届けているね」。その言葉に親子2人は背中を押され、「僕の描く絵でみんながハッピーになれるように心を届けよう。みんなを笑顔に変えていこう」と決意。「誰かのために今僕ができてきたこと」と題して県内各地の会場でアーティスト展を開き、オリジナルグッズも販売して、その売り上げの一部を沖縄県社会福祉協議会とこども食堂、楓人さんの出身地である読谷村の社会福祉協議会へ寄付することに決めました。

「僕の絵を見て喜んでくれる人がいるのが本当につれい。中にはうれし涙を流してくれた人もいます。将来は沖縄市のこども園の飼育係になつて、大好きな動物たちと触れ合う仕事ができればいいですね。」

そんな楓人さんのイラストを今年1年間、ポストカードに載せてお届けします。

Fresh WINDS

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

60th Anniversary
Fresh Winds
2018年 1月号
Vol.160
TOKYO 2020



読者 答えて

プレゼント

『映画ペアチケット』



3組様



12月号当選者

- ★比嘉 敏雄さん(読谷村在住)
- ★島尻 久美子さん(沖縄市在住)
- ★野村 弘子さん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ウィンズ『広報誌係』

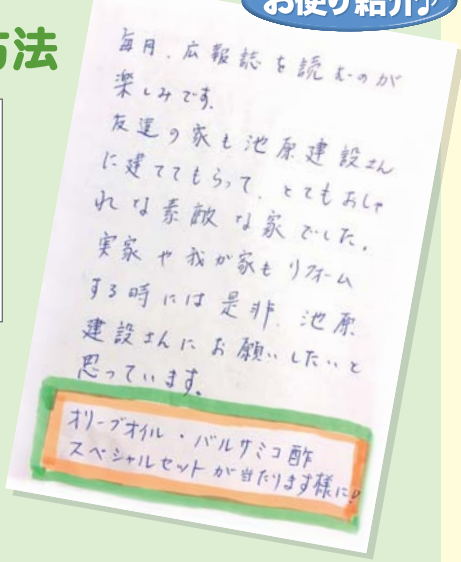
①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

裏 ⑦意見
ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい！

締め切り 2018年1月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.161)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい！

0120-229-512 ウィンズ 池原建設 検索

今月の歳時記

- 1月14日(日) 第9回 美ら島オキナワCentury Run 2018
会場・開催地/恩納村コミュニティセンター(スタート/ゴール)
- 1月20日(土)・21日(日) 第40回 もとぶ八重岳桜まつり
会場・開催地/本部町・八重岳桜の森公園
- 1月27日(土)・28日(日) 第56回 名護さくら祭り
会場・開催地/名護中央公園ほか
- 1月27日(土)・28日(日) 第41回 沖縄市産業まつり
会場・開催地/沖縄市・沖縄県総合運動公園体育館および周辺広場

明けましておめでとうございます!

2018年も池原建設、並びに本誌「Freshウインズ」をご愛顧・ご愛読賜りますようよろしくお願い申し上げます。

おとそ気分も冷めやらぬうちに、1月半ばには北部地方で桜祭りが始まります。恒例になった今帰仁城跡の夜桜ライトアップは1月27日から2月12日まで。お花見には暖かくして出かけましょう。

広報誌制作担当: 仲村龍太



Street Story!

2018年お正月特集

女性社員を中心に仕事環境の改善を図る「サンライズ計画」仕上げの年 創業60年の節目を迎え、社員同士の信頼感・チーム力を最大の戦力に



■明けましておめでとうございます。おかげさまで池原建設は今年で創業60周年を迎えます。これからも地域に根ざした企業として、地域の皆様と一緒に成長していきます。

過去2年間、女性社員を軸に社内基盤の再整備に徹し、いよいよ迎えた2018年。会社のかじ取りを担う代表の池原多加氏と、現場サイドで指導にあたる常務の仲村勝志、総務部で統括推進リーダーを務める雨瀬美和の3名が集まり、これまでの成果を検証しつつ、「仕上げの年」である今年の意気込みや目標について語り合いました。

2017年を振り返って.. より深いレベルでの 意思疎通が可能になり 生産性アップ



池原 多加氏

2016年から3年間のプロジェクトで、女性社員を中心に仕事環境の改善を図る「サンライズ計画」をスタートして2年が経過しました。ほ

ぼ想定通りに目標とする段階をクリアできており、経営面でも日常の業務面でもその成果は顕著に現れています。例えば業績の数字を見ると、生産性が大きく向上しました。つまり一つの仕事をこなすのに、今まで以上に良い効率と時間で確実に結果を出せるようになり、全体として会社の経営環境にも好影響を及ぼしました。背景には社員一人一人の成長があるのももちろんですが、それに加えて横のつながりが密になったことで、作業の質が格段に高まったと考えられます。

日々の仕事の現場では、風通しが良くなり社員同士のコミュニケーションも深化しました。意見を交わしたり連絡を取り合ったりする際に、言葉のうわべだけのやり取りにとどまらず、お互いの立場や置かれた状況を踏まえて判断・行動できるようになり、より深いレベルでの意思疎通が可能になりました。私たち池原建設は今年、創業60年の節目を迎えます。社



仲村 勝志

各セクションを統括する立場から、それぞれの現場をサポートしてきました。女性社員を中心に連携を進めることで果たしてどのような成果が現れるのか、意識的に距離を置いて見ていたのですが、なるほど以前に増して

社内に活気が増し協調性が生まれ、防げるミスは確実に防げるようになっていく。残り1年でどこまで進化するか楽しみます。もちろん課題もまだまだあります。例えば建築業界の人手不足の波は、私たちの業務面にも少なからず影響を及ぼしており、新たな人材をいかに取り込み育成することがその体系を構築することが急務です。準備ができるまでのしばらくの間は、サンライズ計画の延長線上で、社内での連携姿勢の維持・強化に力を入れていくことになりそうです。



雨瀬 美和

過去2年間のサンライズ計画の成果を漢字一文字で表すなら、最初の年は「進」、そして2017年は「光」です。1年目は手探りの中、どうにか前に「進」むことができた。社員同士、さらには各セクション同士のスムーズな協力体制が少しずつ整い始めました。2年目からはさらに連携が深まり、現在は今年末に迎

えるゴールの扉の向こうに、次のステージへと続く確かな「光」が見え始めています。そう考えると、サンライズ計画で取り組んできたことは池原建設の理念そのもの、つまり「私たちは、共に語り、理解協力し合う中で、目的、目標を実現します」というバリュー（行動指針）の先に、ミッション（使命）である「私たちは、喜びと感動を与え、夢の扉を開きます」を具現しようとしているのだと改めて気付きました。これまでやって来たことは間違っていないかったと背中を押された気分、3年目に向けて大きな手応えを感じました。

2018年の抱負.. 地域の支えに感謝し、 次の時代に向けて第一歩

(池原)

2018年はサンライズ計画の仕上げの年。現時点の感触では80%近くまで目標を達成できており、あとは今まで以上にお互いの関係を深めていく段階です。この残りの20%の仕上げが今後の計画に大きく影響するため、油断せず慎重に、しつかり質を高めていきたいですね。目指すべき会社像は、全体の流れの中で一人一人が明確な役割意識と責任の自覚を持ち、自律的、

協動的に行動し、問題を解決し、成長を志向していきけるような関係性を築くこと。会社という一つの組織で動く以上、全員がスーパースターである必要はなく、個々の能力の総和以上に人間関係の総和こそが実戦力になると考えています。

さらに今後は社内だけでなく、さまざまな協力業者の皆様とも同様の関係を深めていきたいですね。現在は年間を通して、3カ月ごとに大きな定期イベント（1月新年会、7月社員家族の集い、10月社員旅行）を実施しており、その一つとして一昨年4月の「ISOUL池原建設・協力ネットワーク安全衛生大会」が加わりました。せっかくこうした流れができた以上、機会あるごとに積極的に働きかけ、目標の共有レベルをワンランク上げられるよう努めていくつもりです。

また創業60年目を迎え、事業継承についても助走段階からいよいよ中盤を迎えようとしています。各セクションでリーダーを務めてきたスタッフは今後はサポート役に徹してもらい、次代を担うメンバーの育成に力を注ぎます。その中で常務の仲村も、会社全体の営業活動・業務推進をバックアップする立場に回



■サンライズ計画の成果を確認し合い、今年予定している若手の起用にも自信を深める

り、今後5年の間に役職を変えていく予定です。1958年に先代が読谷村で会社を興し、今まで事業を継続できたのは、地域の皆様との協力があってこそ。一連のさまざまな取り組みを通じて会社全体の活力を増し、何らかの形で地域に還元していけたら幸いです。

(仲村)

現場サイドでも早急に対応・改善を進めなければいけないことがめじろ押しです。

(雨瀬)

教育・研修面では新たな取り組みとして、各セクションのメンバーを集めて1年間のデザイン研修を始めます。設計部の企画・提案力を高めるとともに、営業部で対応できる幅を広げることが主な目的で、社内には両部署間が境界を越えてスムーズに意思疎通を行えるようにし、お客様に対しては、設計・デザインの基本的な内容であれば営業スタッフが的確に答えられるようにすることを目指しています。社員同士、そして協力業者の皆様との関係同様に、何でも気軽に相談できる身近な存在として、お客様との関わりも深めていきたいですね。

